

平成27年度関東高等学校女子バスケットボール大会 第69回関東高等学校女子バスケットボール選手権大会

平成27年6月7日(日)

Aブロック

決勝

富士北麓公園体育館

Mコート

第4試合

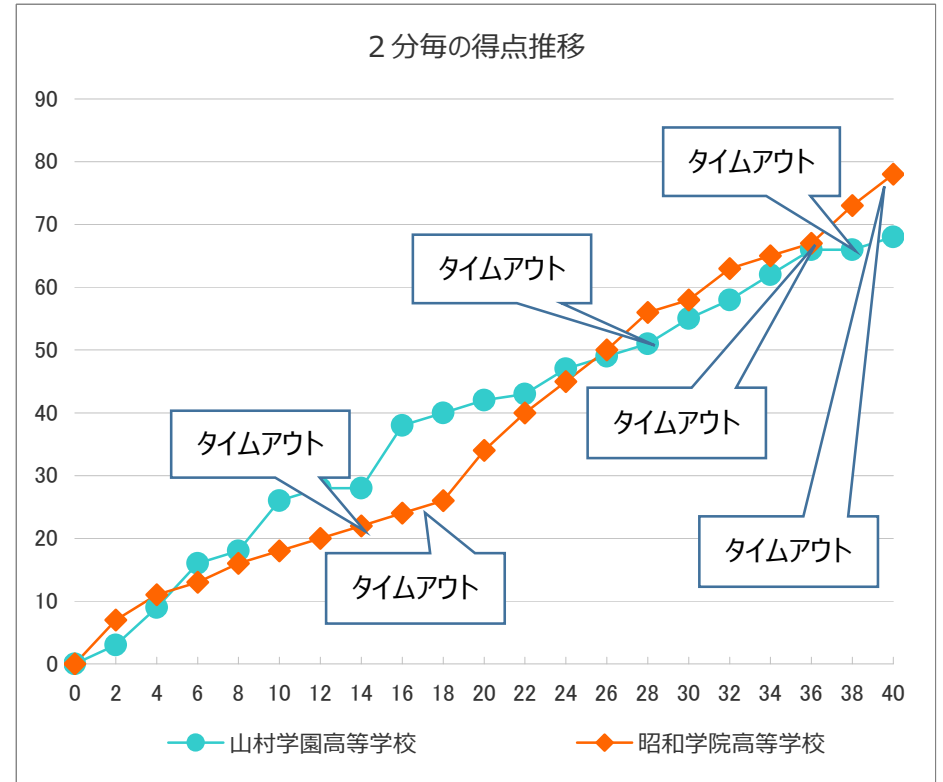
チームA		26	1st	18		チームB
山村学園高等学校 (埼玉県)	68	16	2nd	16	78	昭和学院高等学校 (千葉県)
		13	3rd	24		
		13	4th	20		

Aチーム： 山村学園高等学校

No.	S	氏名	PTS	3P FG		2P FG		FT		F	REBOUNDS			TO
				M	A	M	A	M	A		OR	DR	TOT	
4	*	山崎 滯菜	11	1	2	3	6	2	2	4	1	3	4	3
5	*	丸山 桃果	10	0	3	4	8	2	2	4	3	3	6	3
6	*	渡邊 まりい	12	1	3	4	8	1	2	5	2	3	5	3
7	*	坂本 真祐	15	1	6	3	9	6	6	1	0	5	5	3
8		松本 亜月												
9	*	佐坂 樹	11	0	0	4	12	3	4	5	0	2	2	3
10		永野 陽那												
11		國府田 有加												
12		矢倉 優												
13		古川 夏恋	6	0	1	2	8	2	4	2	1	3	4	2
14		天野 怜奈												
15		萬 起沙子												
16		山上 杏珠	3	1	2	0	3	0	0	2	1	0	1	2
17		木村 モニカ												
18		佐藤 彩乃												
HC/TEAM		下田 宏吉												
		合計	68	4	17	20	54	16	20	23	8	19	27	19

Bチーム： 昭和学院高等学校

No.	S	氏名	PTS	3P FG		2P FG		FT		F	REBOUNDS			TO
				M	A	M	A	M	A		OR	DR	TOT	
4		荻野 あかり												
5	*	中村 美羽	17	0	0	7	14	3	8	3	3	6	9	4
6		小野尾 梨紗	6	0	3	1	4	4	4	2	0	3	3	2
7	*	山本 由真	12	2	7	2	9	2	4	3	1	3	4	5
8	*	赤穂 ひまわり	29	0	1	9	26	11	11	1	15	10	25	5
9	*	山本 加奈子	9	1	8	3	6	0	0	2	3	4	7	2
10		安藤 礼乃												
11		篠原 由梨香												
12		齋藤 絢												
13		田中 咲弥												
14	*	笠置 晴菜	5	1	7	1	2	0	0	3	1	2	3	2
15		宗形 真季												
16		佐古 愛												
17		大塩 菜々子												
18		山下 詩織												
HC/TEAM		鈴木親光												
		合計	78	4	26	23	61	20	27	14	23	28	51	20



戦評

記者：小野 利晴 (山梨県高体連)

関東新人大大会と同一カード、埼玉1位山村学園高校(以下山村)と千葉1位昭和学院高校(以下昭和)との決勝戦。
 1Q：両チームともハーフコートマンツーマンでスタートし、テンポの良い攻撃で得点を重ねる。山村は⑥渡邊3Pをきっかけにディフェンスを激しくし、続けて⑨佐坂の得点により差を広げる。一方、昭和は⑩赤穂のフリースローなどで応戦するも、山村は⑤丸山の速攻などで26-18でリード。2Q：開始早々、山村⑨佐坂の得点で点差を2桁とする。山村の激しいディフェンスの前に昭和はなかなか得点を決めることができず、残り6分37秒でたまたまタイムアウトを取る。しかし、山村⑦坂本のジャンプショットによりこの試合最大の16点差となり、40-24で昭和は2回目のタイムアウトをとる。その後、昭和⑤中村のフリースロー、④笠置の3P等で点差を1桁に戻し、42-34山村リードで前半を終える。
 3Q：昭和⑩赤穂の2Pで後半スタート。昭和は⑤中村のジャンプショット等で点差を縮め、⑩赤穂のフリースローで43-43と流れを取り戻し、同点とする。残り2分40秒、山村の中心選手である⑥渡邊がファールアウト。昭和が一挙に主導権を握り逆転をして、58-55、昭和リードで3Q終了。4Q：開始早々、山村は⑨佐坂がファールアウトとなり、厳しい展開となる。中でも⑤丸山などの個人技で徐々に点差を縮め、残り5分44秒で65-64の1点差とし、必死に食らいつく。残り2分54秒、なかなか得点できない山村が昭和⑦山本の2P成功直後、タイムアウトをとる。タイムアウト後、山村はオールコートマンツーマンに切り替え、勝機を見出そうとする。アグレッシブなディフェンスを展開する山村に対して、後半に逆転に成功した昭和は落ち着いてゲーム展開し、78-68で新人関東に続き、昭和学院高校が関東大会を制した。

主審	第1副審	第2副審
小澤 勤 (山梨県)	小坂井 郁子 (指名)	佐田 幸一 (山梨県)